

佳作

完走より命

高知県 高知大学教育学部附属中学校一年 中山 茜

今年の二月十四日に行われた、高知県の一大イベントでもある龍馬マラソン。この大会に私の祖父が初めて参加しました。

昔からスポーツが趣味で、ゴルフやジョギングなどいろいろなことをする祖父。自宅から十キロほど離れた私の家までマラソンの練習のため走ってくることもありました。

本番当日。私はその日バスケットの練習でマラソン大会を見に行きませんでした。祖父が無事に完走できることを願っていました。でも、その願いは叶わなかったのです。

スタートからおよそ十二キロ地点で、突然祖父は倒れました。心臓発作が起きて心肺停止になってしまったのです。私が家に帰ってそのことを知った時、全く理解できず、「あんなに元気だった祖父がなぜ

……、そう思うことしかできませんでした。

でも、祖父には奇跡が起きました。ちょうど倒れた時に近くを走っていたランナーの中に、お医者さんや看護師さんが五人もいて、すぐかけ寄ってきてくれました。医療のプロの方たちが、心臓マッサージやAEDの使用を五人交代で正確に行なってくれた結果、祖父はすぐに意識を取り戻すことができました。この処置が、三分でも遅ければ植物状態になったり亡くなってしまうので、本当に祖父は助かる運命だったんだと思います、嬉しかったです。

しばらくして、祖父がだいぶ元気になったから、ということとで病院に会いに行くと、前よりも元気がなく、話す声もとても小さくなっていました。ゆっくりゆっくり歩いている祖父を見て、思わず泣きそうになりましたが、しっかりと生きていこうとする姿を見て、

「早く元気になってよ。」

と、涙をこらえて言葉をかけました。

退院してからの祖父はどんどん元気になっていき、全く後遺症もなく、倒れる前と同じようにゴルフにも仕事にも出かけ、普通に生活しています。あんな

ことがあったことすら忘れてしまいそうなくらいです。

大会の後、祖父のことが新聞にのっていてその記事に「完走より命」という見出しがついていました。医者にとっては目の前で倒れた人がいれば助けるのは当然、マラソンはまた来年でも挑戦できるから、ということでした。この方たちも皆さん祖父と同じように何カ月も練習をしてきて、できるだけ早くゴールしたいと努力してきたはずなのに、「職業上、当たり前前」という考えから、このような行動をしてくださったことに本当に感動し、尊敬もしています。この方たちがいなければ今の祖父はいないし、楽しく笑い合うこともできませんでした。

私が大人になった時、どんな仕事をするかは分かりませんが、何か人の役に立つことを必ずしたいし、仕事とは関係なくとも、困っている人のことを自然と助けられる大人になりたいと思います。